

2. 死線をこえて

駒ヶ根市中沢小学校東分校一年

M・F

M のうちへ

「おんどりや」のどこから

水が へっ・て・き・た。

(入ってきた)

よ・う・さ

(夜)

M たちがねとるとき

水が うんと

にわのどこへはいつてきた。

と・お・り・ま・で・つ・い・て・き・た・も・ん・で

おとうちやが

「にげる」ち・ゆ・つ・た

(言った)

(土間)

おとうちやと おかあちやは

うらぐちへみにいった。

おじいちやが

「くらがいい」と おもったも・ん・で

(ので)

M たちも みんな

くらへ へ・え・つ・た。

(入った)

そのとき

水が うんと 川のように

きたもんで

くらは

つぶれちゃった。

M は、

土や すなや いろいろ

いっ・ぺ・え のんだ。

うりやぶの とこまで

ながされて いった。

おとうちやが

「しんじやあ たまらん」と

ゆった。

ゆずらの きのところに

おとうちやは

おちたもんで

うまく すわれた。

それで

(いっぱい)

でんきんばしらに つかまった。

(電柱)

「Y」が

ちよこんと

くらの まんなかに たっていた。

M は

おじいちゃと

おばあちゃの

あいさへへえつて

くるしかつた。

(間へ入って)

M の ところへ

木や ざいもくや ふとん やら

(樹木)

いっぺえ きたもんで

(いっばい きたので)

おとうちやが

ざいもくや いろいろ どかして

(排除して)

だして くれた。

そのとき

おじいちゃや

おばあちゃは

しんどつた。

(死んでいた)

(注) 死亡した K・F 君 (中沢小学校東分校三年) の妹。三十六年七月十九日放課後、聞きとったもの。 M さんの頭の中に残っていること、担任が特に加筆、訂正をしてない。九死に一生を得たものことばは、余人が手を入れるものではない。淡々として語る中に、こく斛の思いがある。

(中沢小学校東分校教員 K・M)